

出奔

素朴なキュルケゴールが街を歩いて
おめでたいことに
こいつは子持ちなのだった
フィナーレは波のざわめきと決まっている
「社会」なんぞはくそくらえ！
早々に宴会からは退散だ

とにかく絵具をぶち撒けば
そいつが自然に抽象絵画になるのだと
いい気になって我が子と遊戯をする
まあそれでも
「実存」とかいうものに唾を吐きかけるくらいの
分別を持っているだけまだましというもの

さてそこで問題となってくるのが転調だ
素朴というからには
突然悪寒に身を縮めて己を抱き締めるという
それくらいのことはやりかねまい
ありもしない熱に足を小刻みにふるわせ
湖水に浮ぶボートの中で立ち上がって顔をおおい

それにして不可解なのはくそまじめな連中どもだ
世界を抱き上げるといういとも簡単なことが
そいつらにはひどい難事業だと言うのだから
まるでそれは血みどろの苦行を要すると言わんばかり
まあ無理もない話かもしれない
マーチというのは「右へならえ」という意味だと思っている連中に見れば

それに比べればこいつの素朴な「自己彫琢」は
何とも明白すぎて公式的だ
くそまじめな連中が回り道したがるのも分からないではない
苦悩の呻きや身を苛む感応
それに永遠に手の届かぬ希望
くそまじめな連中が羨望するのはそういうものさ

おめでたいのは素朴な彷徨
自然が放つ息吹きを単純に肌に沁み込ませ

こいつはもう既に意を固めているらしい
「俺はただ歩いてゆくだけだ」と、微笑しながら
おお、この単純は何とずば抜けていることだろう
子持ちだというのに・・・

(1989.11.28)